

—手つかずだった紀州の恵み—

シイフローリング

和歌山県林業試験場

親しみのある木

シイと聞いても知らない方は多いかもしれません。「椎の木」とも呼ばれるシイですが総称で、大きく分けるとスダジイ（イタジイ）とコジイ（ツブラジイ）の2つに分けられ、和歌山県には両方とも自生しています。シイは4月中旬から6月頃に花を咲かせ、山の一部をクリーム色に彩ります。秋には「椎の実」と言われる食用どんぐりを実らせます。



シイフローリングができた背景

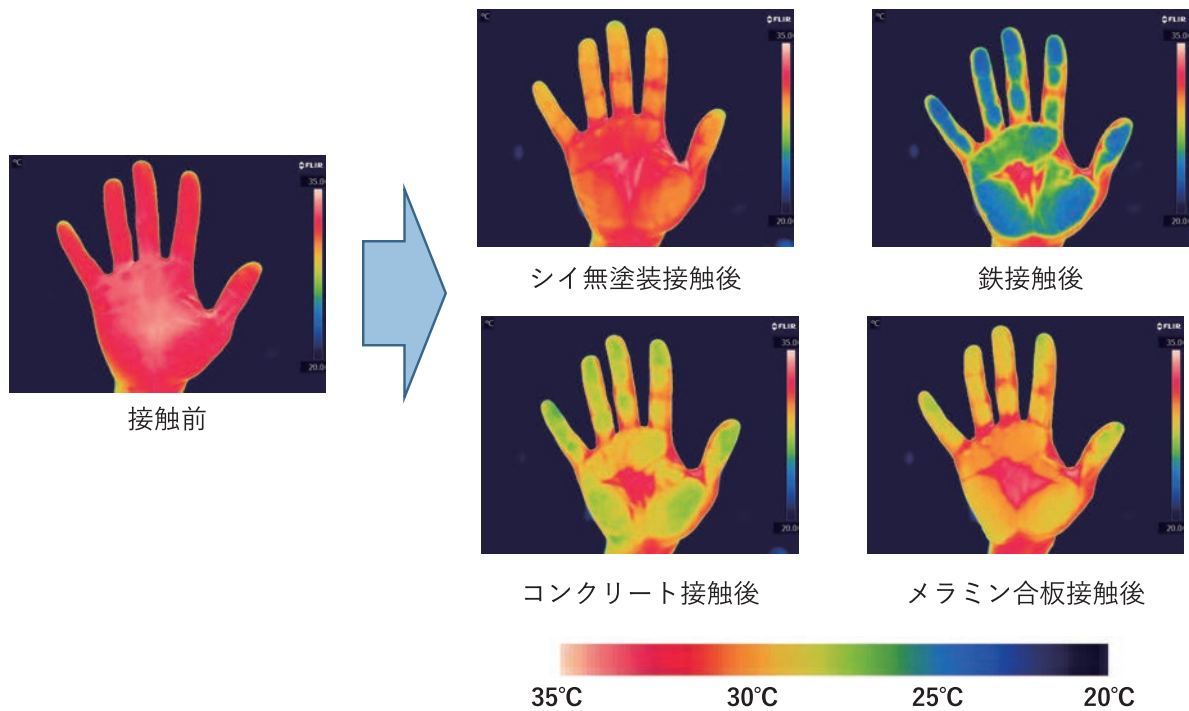
和歌山県には、シイの豊富な資源量があります。しかし、割れや変形などの損傷を抑えながら乾燥させることが難しいため、チップや薪等の低利用に止まり、家具や内装材といった用材利用がほとんどされていませんでした。このため、シイは大きく成長し、そのまま放置すると木を枯らしてしまうカシノナガキクイムシの温床となるため、周りの木々への被害拡大が懸念されています。

そこで、シイを用材として利用するために、和歌山県林業試験場では乾燥の研究と性能評価を行い、この商品の開発につながりました。



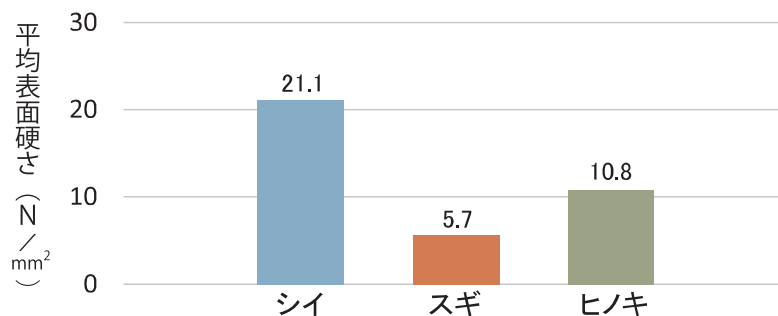
天然素材である

シイフローリングは木をそのまま使用する無垢材のため、下図のとおり肌で触れた際の熱の移動が小さいことから、鉄やコンクリートと比べて違和感が少なく、木が持つ本来の温かみや質感を味わうことができます。



十分な硬さがある

紀州材あるいは、国産材を使いたいけれども、傷やへこみが付きやすいことを理由に断念した方もいるかもしれません。そこで和歌山県産のシイとスギ、ヒノキを使用した硬さ試験を行うことによって、材表面の硬さを比較してみました。その結果、スギの 3.7 倍、ヒノキの 1.9 倍硬いことがわかりました。



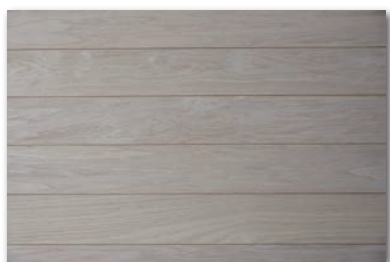
印象評価試験

シイフローリングの普及につなげるためのデータを集めることを目的とした印象評価試験を行いました。試験には無塗装とウレタン塗装（クリア、ホワイト、ブラウン、ダークブラウン）した5種類のシイフローリングサンプルを使用しました。

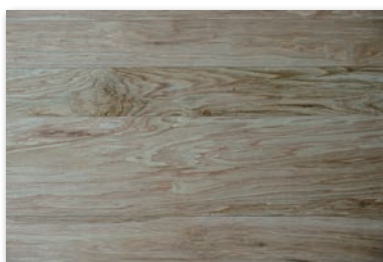
試験はアンケート形式で行い、9つの形容詞に5段階評価で答えていただきました。まず、各サンプルに触れることなく、目で見た印象について評価していただき、その後実際に触った印象について評価していただきました。また、目で見た際と触れた後の一番好きなサンプルについても答えていただきました。なお、試験は和歌山県（大学、県関係施設）と東京都（木製品PRイベント会場）で行いました。

試験の結果、目で見ただけではシイフローリングを評価しきれないことが確認され、実際に手に取っていただき質感や温かさを体感していただくことが大切だとわかりました。一番好きなサンプルについては、大きな変化は見られませんでした。なお、今回の試験において、和歌山県ではブラウンやダークブラウンに塗装したものの評価が高く、東京都では無塗装やクリア塗装の評価が高くなりました。

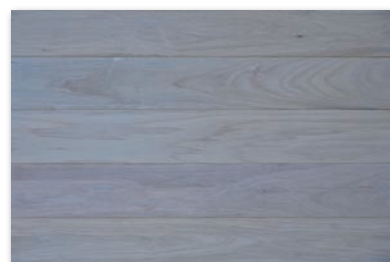
使用した各サンプルのイメージ写真



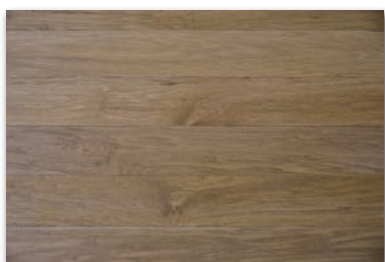
シイ無塗装



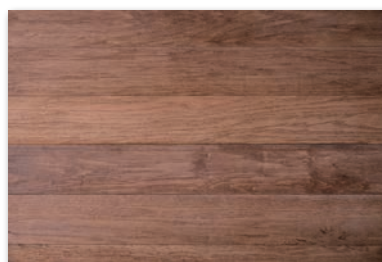
シイ塗装（クリア）



シイ塗装（ホワイト）



シイ塗装（ブラウン）



シイ塗装（ダークブラウン）

施工事例

・ 広川町観光・地域交流センター「いなむらの杜」

和歌山県有田郡広川町広 873-1

規格：長さ 910・1,820mm × 働き幅 105mm × 厚さ 12mm（1枚）

仕様：無垢材、本実加工、ウレタン塗装（クリア）、土足利用



※注意事項

- ・ シイフローリングは天然素材のため節や虫穴が入ることがあります。
- ・ シイはスギやヒノキのように真っ直ぐ成長しないため長尺は難しいです。
- ・ 無塗装で使用する際は水分や汚れに注意する必要があります。
- ・ 無垢材のため椅子の脚等で凹みや傷が付くこともあります。

・物産販売・飲食施設「道あかり」

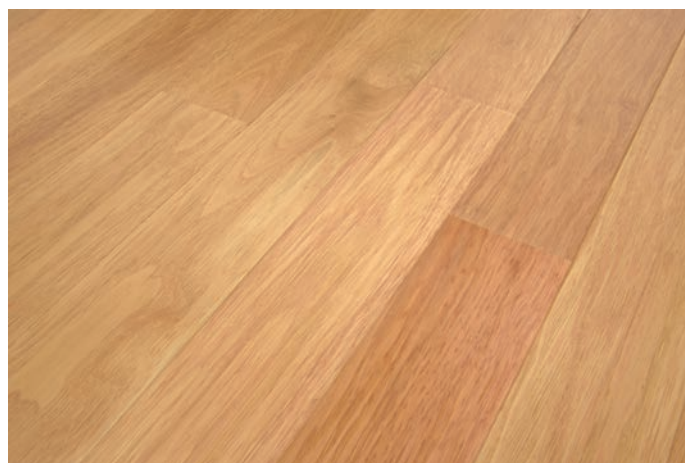
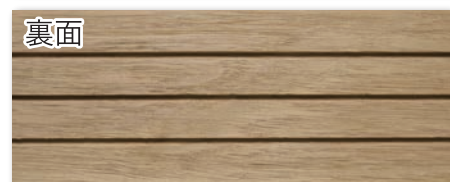
和歌山県有田郡広川町広 526 番地

規格：長さ 910mm× 働き幅 105mm× 厚さ 12mm（1 枚）

仕様：無垢材、本実加工、ウレタン塗装（クリア）、土足利用



シイフローリングのイメージ写真



ウレタン塗装（クリア）施工写真

お問い合わせ先

和歌山県林業試験場

木材利用部

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

TEL 0739-47-2468

